

# わが校自慢

## 大山小学校

大山小学校の自慢は、なんとといっても校地内に梨園をもっていることです。名称は「大山梨園」といいます。

この「大山梨園」は、県内でも有数の梨の産地である大山地区の農業を象徴するものとして、昭和57年3月に誕生しました。当時の6年生の保護者の皆様が4種類9本の木を植えてくださり、今に至っています。4種類の木の中には、今では懐かしい「長十郎」やほとんどみられない「長寿」という品種が、「幸水」「新高」に混じって植えられています。



3年生による花粉つけ

この梨園で、子どもたちは栽培に関する一連の作業を体験し、地域の産業について理解を深めることができます。梨の花が咲くと花粉付けを行い、小さな実をつけると、よい実だけを残す摘果をし、そして夏に収穫して全校児童で味わいます。

品種によって花の咲く時期や収穫時期がずれていたり、実った梨の味や舌触りが違っていたりするのも、この梨園の作業を通して実感することができます。しかも、この梨園には防鳥ネットや防ひょうネットが設置してあり、設備の点でも一般の梨園となんら変わる所はありません。梨の木の数こそ少ないけれど、本格的な梨園です。大山小の子どもたちにとって、この梨園はまさに生きた教材となっています。



大きな梨が実りました

実際の栽培や管理については、受粉用の花粉を用意したり、消毒や枝の剪定といった面倒で手のかかる作業が更に必要ですが、これらはPTAや地域の農家のかたがたが時季をみて仕事をしてくださっています。これも創設以来ずっと続いています。

地域の人々に支えられ、地域とともに歴史を重ねてきた「大山梨園」。おおぜいの人々の思いがいっぱい詰まったこの「大山梨園」は、大山小学校のたいせつな宝物です。

—白岡の古道をゆく vol.12—

# 粕壁菖蒲往還 と 篠津宿

ふるさと

## 白岡紀行

県立白岡高校に程近い高岩の田端耕地の庚申様に小さな仏様の浮彫のある石塔が立っている。遺存状況の良いものではなく、かろうじて「普門品供養塔」の文字が読み取れる。普門品とは観音経ともよばれ、観音菩薩が衆生の願いを叶えてくれるという信仰によるもので、これを何回読んだという記念に供養塔を建てたようである。



県立白岡高校近く、高岩の田端耕地に立つ「普門品供養塔」

この塔の両側面も道標となっており、左側面には天保15年(1844)の年号とともに「左さつてーリノすぎとーリ」とある。右側面には武州高岩村と彫られた下に「右しょうぶニリノしのづ半リ」と読み取れる。高岩村の人々は、日川の自然堤防に作られた駒形の集落を抜けて、篠津小学校附近から「野与道」を経て篠津の宿へ向かったのであろう。

篠津の宿は春日部と鴻巣を結ぶ「粕壁菖蒲往還」の町場で、文政10年(1827)の記録から、農業の傍ら約半数の家で商工業に携わっていたことがわかる。中でも、「篠川」という屋号の紅花問屋は元荒川をつかった河岸場の問屋として栄えたようである。また、綿打、紺屋、機織、綿布などの木綿織物や麦、稗、粟、大豆などの雑穀などが集積され、鴻巣や春日部、あるいは隣接する菖蒲や久喜などの町場へ運ばれていたようである。この他、質屋、湯屋、髪結、升売酒屋、造酒屋、鍛冶屋、石屋、桶屋、医師などの文字も同われ、店を持たない出商を加えたとかなりの賑わいを見せたのではないかと推測される。



「左 さつてーリノすぎとーリ」と読みとれる

贅を凝らした彫刻で飾られた天王様の山車や久伊豆神社の社殿が往時の賑わいを今に伝える生き証人である。

贅を凝らした彫刻で飾られた天王様の山車や久伊豆神社の社殿が往時の賑わいを今に伝える生き証人である。

わが校自慢、ふるさと白岡紀行のコーナーは、今月で終了させていただきます。